第65回黒部市教育振興協議会（会議概要）

1　日　時　　令和８年２月９日(月)午後６時30分～午後７時17分
2　場　所　　黒部市役所 201・202 会議室
3　委員・市教委事務局

委　員	選出団体	事務局	職　名
漆間　中郎	黒部市自治振興会連絡協議会	齊藤　　誠	教育長
米屋　祐治	黒部商工会議所【欠席】	小倉　信宏	教育部長
山田美稔子	黒部市農業協同組合	桐　　義輝	次長、学校教育課長
柳原　伸敏	黒部市社会教育委員会	牧野　恵美	生涯学習文化課長
河田　　勇	黒部市体育協会	田中　倫則	スポーツ課長
菅野　竜寛	黒部市ＰＴＡ連絡協議会	舘野　敬子	図書館長
岡本　　薫	黒部市小学校長会長	高野　正規	こども支援課長（市民福祉部：幼稚園教育担当）
柴田　由明	黒部市中学校長会長	若島　　肇	学校教育課学校教育班長
當田　松久	公募委員【欠席】	松平真由美	学校教育課学校給食センター所長
能沢　一代	公募委員【欠席】	王生　　透	生涯学習文化課ジオパーク推進班長
		幸林　理恵	生涯学習文化課歴史民俗資料館長
		奥村　美奈子	学校教育課主幹、課長補佐、班長補佐
		山田　真澄	学校教育課主幹、課長補佐、庶務係長（事務担当）

4　会議次第
(1)開　会
(2)挨　拶　（教育長）
(3)審　議　令和８年度黒部市教育の方針（案）について
(4)閉　会

5　会議概要
●審議事項:令和８年度黒部市教育の方針の審議(内容は次ページ以降に添付)

Ｑ１）「Ⅱ　心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育」（学校教育の充実）「１　確かな学力」（１）の①に、「非認知能力の育成」と記載がありますが、市民の方がこの言葉を見た時に、この言葉だけでは意味を理解しづらいのではないでしょうか。この言葉の後ろに、非認知能力が意欲や自制心、協調性や忍耐力といった、内面的な生きる力であるという説明を追記するとよいのではないでしょうか。

Ａ１）おっしゃるとおりであるので、わかりやすい記載に改めていきたいと思います。

Ｑ２）「１　確かな学力」（１）の③に、「授業と連動させながら」と記載があります。連動という言葉を使用する際は「〇〇と〇〇を連動」という使い方をすることが多いと思います。後の文章を読んでいくと意味は通じるかもしれませんが、このままの表記では少し違和感があるので、表記を改めるとよいのではないでしょうか。

Ａ２）表記について改めて検討していきたいと思います。

Ｑ３）「２　教育環境の整備」の（３）に、「危険に対する判断力」という記載があります。これは「危険感受性」や「危険予測能力」を表している言葉でよいのでしょうか。

Ａ３）この言葉についてですが、例えば安全の面でいえば、交通安全に関する予備知識を含め、危険個所等の把握といったもの、防災の面でいえば、訓練時を含め、個々に判断・対応し避難する力が求められていることから、身の回りにある様々な危険に対して、的確に行動ができるのかといったことに対する判断力という意味で記載しています。

Ｑ４）「２　教育環境の整備」の（５）に、「児童生徒をたくましく育てる（適正な学校規模の実現)」と記載されていますが、これは来年度以降何か具体的に行うことが決定したりしているのでしょうか。

Ａ４）特に具体的なことは決まっていないのですが、この記載については踏襲しています。

Ｑ５）「２　教育環境の整備」の（５）に、「黒部市立小中学校再編計画」と記載されていますが、中学校はすでに再編が終了しているように思われるのですが、何かしらの考えがあっての表記なのでしょうか。

Ａ５）「黒部市立小中学校再編計画」については、令和９年まで継続するものになります。おっしゃったとおり、中学校については４校から２校への再編が終了しており、現在は小学校の再編のうち、２つの再編についての案が出ています。ただし、2035 年には現在の児童数の半数の児童数になる見込みがあることから、現行の再編計画を終えても新たに再編を行わなければならないことになると思っています。現在進めている、地域の学校であるコミュニティ・スクール事業や、適正な学校の規模等を踏まえて、今後は新たな再編計画を作成しなければならないと考えていますが、現行の再編計画が残っているため、「黒部市立小中学校再編計画」という表記としました。児童数半減に伴う学校の再編については、今後人口推移を確認しつつ、地域の

方々ともしっかりと話し合い理解を得る必要がある、とても重要なことであると思います。今後しっかりと計画を立て、地域の方々とも協議していきたいと考えています。

Ｑ６）（芸術文化の振興）「１　市民文化活動の推進」の（４）に、「芸術文化振興団体等と連携し、地域クラブ活動組織の拡大」との記載がありますが、運動部の地域クラブ活動は進んでいると思いますが、文化部については令和７年度から掲げられてはいるものの、まだ始まったばかりの事業だと思います。そのため、「地域クラブ活動組織の拡大」という表記はそぐわないのではないかと思いました。運動部については、令和３年度より国がモデル事業を推進し、活動組織を構築してきたのではないかと思います。そのような経緯があるならば拡大という表記でよいとは思いますが、文化部に関しては、まだ組織を作り出すところであると思うので、拡大という表記はそぐわないのではないかと思いました。

Ａ６）文化部については、令和８年度より活動の様子を確認するとともに、黒部市の芸術文化協会に所属している各団体の中で、中学生に指導が可能である方がいるかどうかの確認を行っていきたいということで拡大と表記していますが、今ほどのご意見を伺うと、やはりまだ組織がない状態であり、まずはその組織作りからとなると思うので、表記を改めたいと思います。

Ｑ７）「２　文化遺産及び自然遺産の保護活用」の（３）に「ESD の実践」と記載されています。このような専門的な用語を記載する際、その用語の後ろに説明を追記するような配慮があると、関係者だけではなくいパンの市民の皆さんにもわかりやすく伝わるような気がします。

Ａ７）ESD については、まだ馴染みの少ない用語であると思うので、用語の説明を追記しようと思います。

Ｑ８）「５　スポーツを通じた地域振興」（２）の①に、「トップレベルのプレーを『みる』機会」と記載されていますが、この「みる」は意図的にひらがなでの表記にしているのでしょうか。

Ａ８）この「みる」については、黒部市のスポーツ推進プランの表記に合わせて、ひらがなの表記としています。

Ｑ９）「３　スポーツ活動等の拠点づくり」に、「総合体育センターについては、長寿命化計画に基づき費用対効果を十分考慮し、整備を進める」と記載されていますが、令和７年度に改装を行っていたと思いますが、これからもまだ改装の予定があるのでしょうか。

Ａ９）令和７年度に行ったのは、メインアリーナとサブアリーナの照明の LED 化のみとなっています。体育館は築 30 年以上、プールについては築 35 年以上が経過しており、様々な修繕や改装が必要になっているため、限られた予算の中で、費用対効果を確認しながら、必要な修繕や改修を行っていくこととしています。

Q10）文章内に「幼児児童生徒」という表記と「子ども」という表記が混在している部分があります。意味は通じるのですが、個人的に少し違和感があります。また、（生涯学習の推進）「1　生涯学習機会の提供」（２）の②に、「利用者の交流と誰もが利用しやすい環境を整備する」との記載がありますが、「利用者の交流を図り、環境を整備する」と表記した方がわかりやすいのではないかと思いました。

A10）「子ども」の表記についてですが、この部分については、子どもの前に「放課後など」との記載があると思います。学校外となる放課後や土日の場合は、児童ではなく子どもと位置付けることとなっており、福祉分野と教育分野の些細な違いではあるのですが、この場合は「放課後などの子どもたち」ということで、「子ども」と表記しています。他のご意見については記載を確認し、改めていこうと思います。